



## 大地申1号「JR東労組大宮地本第19回定期大会」の発言に基づく申し入れ第2回交渉④

3. 今後の施策の実施に向けて大宮支社としての考えを明らかにすること。なお、安全の確保を大前提に社員の働きがいと会社発展に寄与できる職場を構築するため、前広に労使議論をおこない、認識を一致させた上で実施すること。

施策実施にあたっては、前広に社員に情報を開示し、必要な改善を加えるなどの対応を行うことで、より良い施策にしていくと共に、引続き安全・安定輸送の確保とサービス品質の向上に努めていく考えである。

組合) 今後の施策について系統ごとの考え方を聞きたい。全体的にもあれば聞きたい。

会社) 全体としては前広に社員に情報を伝えていく。必要な都度、労使議論もしながら良い施策を作っていく。

(営業) 回答の通り。この間も施策を進めてきたが、社員に情報を開示し、周知しながらより良い施策にしていく。(設備) 前広に情報を社員周知し今後も進めていく。(運輸) 各系統と同様に進めていく。

組合) 安全確保が大前提で良いか？

会社) 安全安定輸送の確保もあるが、サービス品質の向上に努めていく。地域の発展に貢献できる企業づくりをしていく。

組合) 労使で議論を協約協定で同じ認識でやってきた。この認識は変わらないか。

会社) その都度、労使議論をしっかりとおこなって施策を進めていく。

組合) 認識を一致した上で進めていくことについてはどうか。

会社) 時期が来れば提案事項であれば、提案を行いながらやっていく。必要な議論を行いながら、真摯に向き合いながら施策は進めていく。

組合) 現場、企画部門共にスピード感に追い付いていないことを危惧している。車セ関係では当初のスケジュールで進んでいない。実施日が決まっても準備が追い付いていないと現場から言われている。工程が超勤ありきなのは問題だ。

会社) 車両課と現場とも話しながら進めており課題はあると思っている。解決策についてはメーカーとも話している。現場も頭を悩ませながらやっている。各種違反があってはいけない。工程に間に合わせるように知恵を絞っていく。

組合) 設備関係だが、実施後の検証も重要だ。7月の保線のモニタリング施策以降の話だが、事象を報告してから現場に足を運ぶのが遅い。かなりの時間が経過してから現場に行っている。事象が発生した時にどう修正していくかが大事だ。施策は全系統に関わる。問題提起に対しては議論していただきたい。

会社) 交渉でも議論してきたが、現場の特情は見ていくようにする。

組合) 基地再編施策の議論だが、労使議論を求めたが、職場議論が先行し我々は何も知らない。職場から地本に連絡がきても何も説明できない。京浜の施策でも検証が重要だ。事前に繋いでいただくことも重要だ。

会社) 基地再編について具体的に中身が決まっているものではなく、前広に社員周知した。具体的な内容がないが、後ほど地本にも説明させていただいた。社員の声を聞いてより良い施策にしていきたい。

組合) 成案ではなくてもいい。職場と同じタイミングでも繋いでほしい。

会社) 事前には難しい。職場と同時に説明していく。

⑤に続く

**施策実施においては、これまでと変わらず真摯に労使議論することを確認!**